

「この街」のために。「あなた」のために。

2017年12月号（月刊）発行：社会医療法人 壮幸会 行田総合病院



VOL 036

MERRY CHRISTMAS & HAPPY NEW YEAR

2017 年の行田総合病院

Close-up 放射線科医がいるということ。

Column & News & Topics

12月

社会医療法人 壮幸会

行田総合病院

TEL : 048-552-1111



5～6月

5月：行田消防監修・第1回防災訓練遂行（写真）。医療安全研修会。除細動器勉強会。消化器外科医師が入職。
6月：エピペン勉強会。新人看護師針刺研修・点滴研修。補助循環装置勉強会。放射線科主催勉強会。



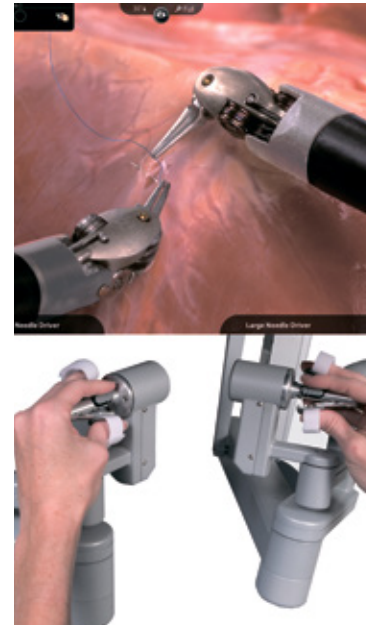
9月

行田消防監修・第2回防災訓練遂行。行田市市民吹奏楽団を招いて『第1回院内音楽コンサート』を開催（写真）。感染対策勉強会（交差感染防止対策について）。泌尿器科医師が入職。



11月

行田市が舞台となったTBS日曜劇場『陸王』のロケ。俳優・役所広司、寺尾聰、山崎賢人、志賀廣太郎、阿川佐和子、キムラ緑子、正司照枝が来院し、7つのシーンを撮影。エキストラは全て当院のスタッフが務めた。



4月

ダヴィンチ導入、泌尿器科にて稼働開始（写真）。小児科外来でDMATCARペーパークラフト配布（写真下）。『第3回肝臓病教室』開催。『リハビリテーション科症例発表会』開催。耳鼻咽喉科医師・消化器外科医師・循環器内科医師が入職。



7～8月

7月：『熊谷・行田感染対策合同カンファ』を開催（写真）。『行田地域循環器領域 Seminar』。輸血勉強会。リハビリテーション科病院見学会スタート。8月：『看護師再就職技術講習会』。整形外科医師が入職。



10月

『行田市消化器疾患懇話会』に当院医師が多数参加。『第4回肝臓病教室』開催（写真）。感染対策勉強会（感染性腸炎と環境整備）。『行田地区抗凝固療法 Network Meeting』を当院で開催。



二〇一七年の行田総合病院。

地域のために。あなたのために。

2017年も24時間365日の診療体制を維持することを使命とし、地域医療支援病院・災害拠点病院・埼玉県救急搬送困難事案受入病院であり、埼玉県北で一般病床504床を誇る中核病院としての責務を果たして参りました。
『あの病院があるから安心だね』とっていただけることを目標に、最新の医療機器の導入や施設拡充を行い、安心して暮らせる良い街づくりに協力し続けます。
それでは、行田総合病院の2017年を写真で振り返ってみましょう。



4月

新入職員64名（看護師24名、看護助手3名、薬剤師4名、リハビリセラピスト13名、臨床工学技士3名、臨床検査技師3名、診療放射線技師4名、社会福祉士1名、事務スタッフ8名他）が入職。



1～3月

1月：看護師・コメディカルのユニフォーム一新（写真）。『行田市消化器疾患懇話会』に消化器内科・外科の医師が多数参加。2月：『加須・羽生病診連携セミナー』にて川嶋理事長・循環器内科医師が講演。



放射線科医 がいるということ。

放射線科医長／医師・小笠原飛鳥

はじめに

放射線科は常勤医師1名、非常勤医師3名で活動しております。ところで、一般の方に「放射線科をご存知でしょうか？」と尋ねると大抵はあまりご存じないか「ああ、家族が〇〇癌の治療でお世話になりました」などと言っていたことがあります。このような「放射線治療」を行う放射線治療科とは別に、当院放射線科は「画像診断」を行う放射線診断科としての業務を担っております。あまり馴染みがないであろう当科が普段どのようなことを行っているのか、お話をさせていただきます。

画像診断、読影とは？

そもそも画像診断とは、体内の情報を画像化し解析することで、体の外から診るだけでは分からない体内の様子や病気の情報を得て診断に役立てる医療技術のことです。病気になった時、もしくは健診など病気があるかないか調べる時、身体診察や血液検査と並び画像診断は重要な役割を果たすものとなります。当放射線科では単純X線写真、CT、MRI、マンモグラフィ、消化管造影検査、血管造影検査等の読影を行っており、放射線科医は各診療科の医師から依頼を受けて撮影された検査画像を読影し、主治医に報告書として結果を届けています。そのため、多くの場合放射線科医は患者さまと直接お会いすることなく、検査の画像やカルテ、他の検査結果などを通じてのみ診断を行っております。

近年における医療技術の進歩は凄まじく、様々な機器・技術が開発されてきました。単純写真からCTへ、MRIやPETの登場、さらに多列CTによって全身を1回の息止めで撮影できたり、MRIで高速撮像法の開発やSENSE法といった複数の情報を一度に取得する撮像法が開発されてきました。これにより一度に1000枚を超える画像を作成したり、MRIで十数種

えて②何か別の病気が隠れていないかという偶発症の検索も必要であり、さらに③なるべく早く結果を臨床へ伝えることを重要視しています。そのため放射線科医はどこからどんな順番で観察するかなどそれぞれルーチンとなる読影法を決めたりしています。私の例ですと、例えば腹痛の検査ではまず痛い部位を見て、次に肺や骨軟部など意識の外になって見落とされがちな部位をスクリーニングし、各臓器を順に見て最後にもう一度目的の部位を確認する、などとルーチン化しています。

最近あった症例です（下図参照）。

【症例1】結腸憩室炎の症例です。通常の条件でも腸管の浮腫や周囲脂肪濃度上昇があり憩室炎の診断は可能でしたが、階調を調整することで隠れていたガス像を描出でき、単なる炎症のみではなく穿孔／穿通（破れていること）の可能性を報告しました。

【症例2】膀胱腫瘍の症例です。深達度といった病変の広がりやリンパ節転移の有無を調べることを主目的とした検査で、「意識の外」になりがちな腸管について内容物が糞便ではなく腫瘍、つまり大腸癌が合併している可能性を報告しました。

放射線科医がいるということ。

いかがでしょうか。放射線科医の仕事内容が少しはイメージしていただけたでしょうか。最後に究極の質問「放射線科医って本当に必要？」。患者さまを診察するのも、検査を予定するのも、結果をふまえて治療をするのも主治医。放射線科医がいたほうがいいとしても、必須かと言われると…。放射線科医自身が誤解を恐れず言ってしまうと、病院にとって放射線科医とは必須の存在ではありません。放射線治療医やリハビリ等を使って直接治療を行うInterventional Radiologistとは違い、放射線診断医の業務は他科の医師でも大部分代替可能なのです。だからこそ、単なる検査結果のダブルチェック

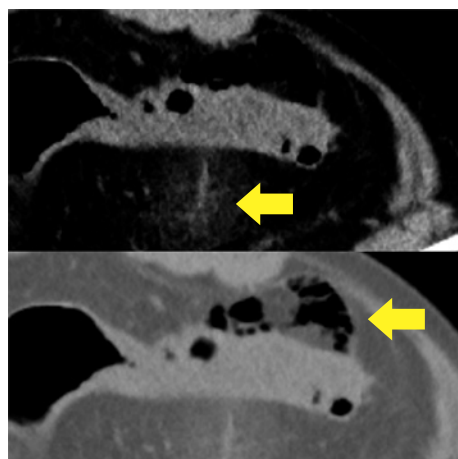
類の異なる条件を比較したりすることも珍しくはない状況となり、もはや主治医が一人で外来の合間に画像検査を行い緻密な読影を行うことは不可能になりつつあると言っても過言ではないと思われます。そこで放射線科医が主治医のいわば「もうひとつの目」となることでよりスムーズに治療へ専念できる状況を提供したいと考えております。

読影環境

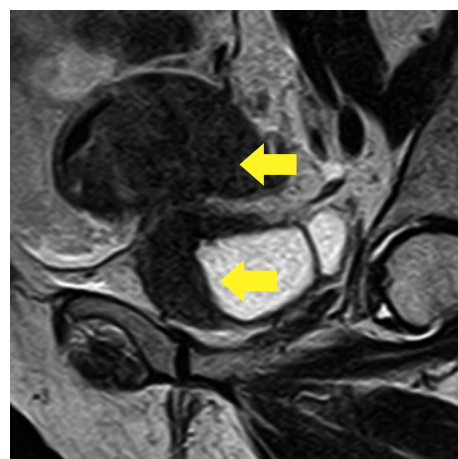
近年は従来のフィルム診断からモニタ診断へと移行し、ほぼすべての画像検査を電子カルテ上で見ることが可能となりました。しかし前述のように画像診断の発達に伴い、電子カルテ+1面モニタのみで処理することは難しくなります。そこで専用の読影端末+多面モニタを使用し、よりスムーズな読影ができるようになっていきます。また、検査画像すべてを電子カルテに送信するとデータ容量が大きくなってしまうパソコン、使用者共に負担となってしまうため、ある程度制限された内容で配信しているのですが、放射線科ではより細かな画像まで確認することが可能であり、小さな病気の発見や周囲との関係性をより詳細に検討することができます。そして必要に応じて条件を変えて表示したり、見やすい角度で再構成した画像を作成したり、3D画像などを追加したりしながらより質の高い診断を行っております。

どのようなことに 気をつけて読影しているのか？

おなかの痛い原因はなにか、ある腫瘍マーカーが上昇しているから〇〇癌がないか、など、当たり前のようなことですが、画像検査はなにか目的があって行われます。読影では①検査目的に沿って病気・所見を探しより詳細な内容を付加することが最も重要になりますが、加係になってしまわぬよう、より早くより正確で詳細な読影を行い専門性および客観性の高い報告書を作成することとはもちろんのこと、モダリティの選択や撮影方法など検査計画の最適化や、診断・鑑別診断をふまえてconcernの提案を行うことなどを通じて診療の質的向上に貢献させていただくことで、「放射線科医がいてよかった」と言っていたできるよう努力していく所存です。



【症例1】
通常条件（上段）で腸管壁肥厚と周囲脂肪濃度上昇あり。条件を変えると（下段）隠れていたガスが見える。



【症例2】
厚くなった膀胱壁が確認でき、その頭側にも大腸壁の腫瘍状肥厚があるのがわかる。

NEWS & TOPICS

2017.10-2017.11

行田市消化器疾患懇話会 ホテルガーデンパレス熊谷・千鳥の間



2017年10月4日(水)

当院消化器内科・外科、放射線科・病理診断科の医師が多数参加。

行田市医師会長・根本先生の挨拶に始まり、内視鏡センター長・芹澤医師が座長を務め、消化器外科副部長・坂野医師(写真左)による症例提示『胃粘膜下腫瘍の腹腔鏡下手術について』が放射線科医長・小笠原医師と病理診断科部長・福島医師のコメントを交えつつ行われました。その後、外科部長・川原林医師へ座長が代わり、埼玉県立がんセンター消化器内科長兼副部長・原先生(写真中)による症例提示『胃がん化学療法の治療戦略』が行われました。「非常に分かりやすく、有意義な内容であった」と川嶋理事長が閉会の言葉をまとめました。

行田市医師会学術講演会 ホテルガーデンパレス熊谷・千鳥の間



2017年10月11日(水)

「C型肝炎治療、最後のチャンス」

座長は松原医院院長・松原先生。「C型肝炎治療、最後のチャンス」をテーマに消化器内科・橋本医師(写真)が特別講演を行いました。行田市医師会長・根本先生が謝辞を述べられ、終演となりました。

埼玉県北吸入ネットワーク研究会 クレア鴻巣・大会議室



2017年10月20日(金)

呼吸器系研究会を県北で初開催

内科部長兼呼吸器内科部長・竹内医師(写真)が座長を務めた特別講演は、東濃中央クリニック院長・大林先生による『より効果的な患者吸入指導を目指して～真の医薬連携構築の試み～』でした。鴻巣市・行田市の医療従事者が多数参加されました。

行田地区 抗凝固療法 Network Meeting 新南棟 4 階 会議室



当院循環器内科部長
原城達夫 医師

当院循環器内科医長
那須 学 医師

山本クリニック院長
山本直人 医師

北里大学医学部講師
下浜考郎 医師

当院理事長
川嶋賢司 医師

2017年10月25日(水)

～脳卒中死ゼロを目指して～

行田市の循環器内科医師によるミーティングを当院で開催。循環器内科部長・原城医師によるオープニングリマークスに始まり、山本クリニック院長・山本医師が座長を務めた基調講演では、循環器内科医長・那須医師が『心房細動について』をお話しました。特別講演は川嶋理事長が座長を務め、北里大学医学部循環器内科学教室講師/外来主任・下浜医師による『AF 合併 PCI 患者の抗血栓療法～北里大学の治療選択 REDUAL-PCI を含めて～』が講じられました。

COLUMN

ドクターやナース、コメディカルの日常、大げさにいえば人生観まで。

好評につき、毎号連載中！

2017 年を振り返って。

寒さが増し、鍋料理が恋しい季節になりました。赤や黄色が山々を彩った紅葉の秋が過ぎ、遠くに望む富士山は雪化粧しました。市内ではドラマ『陸王』の撮影が各地で行われるなど、これまでにない賑やかな年末を迎えようとしています。毎年恒例となったこのコラム、本年の出来事を思い返してみましょう。



行田総合病院 理事長
川嶋賢司

- 1 月 トランプ大統領が就任
- 2 月 プレミアムフライデー開始
- 3 月 長野県で防災ヘリ墜落
- 4 月 『ギンザシックス』開業
- 5 月 北朝鮮が3週連続でミサイルを発射。8月には北海道上空通過も。
- 6 月 パンダ「シンシン」5年ぶり出産。9月に「シャンシャン」と命名＝上野動物園
- 7 月 九州北部豪雨
- 8 月 花咲徳栄が優勝＝埼玉県勢初制覇＝高校野球
- 9 月 眞子さま婚約内定
- 10 月 座間アパート遺体事件
- 11 月 ピラミッド内に未知の巨大空間を発見

事故や災害、事件、不安な国際情勢などBAD NEWSが多い中、できるだけGOOD NEWSを思い浮かべようと記憶をたどりました。皆様はどのニュースが心に残っていますか？

私個人としましては、ドラマ『陸王』の撮影が市内各地で行われていたことです。昭和63年に開院して以来、ここまで大規模に市内で撮影が行われたことは記憶にありません。水城公園や忍城といったおなじみの場所にエキストラとして集まった市民の皆様をお見かけしました。

行田市が全面的にバックアップをすることによって実現した市内各所での撮影ですが、当院でも11月初旬に撮影が行われました。新南棟の病室や廊下、内視鏡センター前の廊下を使用したシーンはとても迫力がありました。制作スタッフやキャストの高いプロ意識を肌で感じる事ができました。

もちろん、当院の医師・看護師・コメディカルも同じように高い意識を持ち、患者さまに対して日々真剣に向き合っています。来年は30周年を迎えます。これまでも増して地域医療や救急医療に取り組み、皆様の健やかな暮らしを守るために精一杯活動し続けます。

ADVERTISING

院内・院外からの広告を受付けております。

●泌尿器科外来からのお知らせ

尿失禁についてお悩みの方へ。



「おしっこが出にくい」「回数が多」「漏れる」などなど...

尿失禁についてお悩みを抱えてる方は、ぜひ当院の排尿機能外来を受診してください。

埼玉医科大学病院泌尿器科の朝倉博孝教授による専門外来です。

●毎月第2・第4水曜日の午後に診察を行っています。

▶いつでもお気軽にご相談ください。

【行田総合病院 泌尿器科外来】

●看護担当課からのお知らせ

看護スタッフ専用の相談窓口「サポートセンター」をどうぞご利用ください。

看護スタッフの皆さんがより気軽に相談へお越しいただけるよう新西棟4階に「サポートセンター」を設置し、看護担当課のスタッフが幅広い相談に対応しています。

終日オープンしているため、夜勤明けや終業後など、既にご利用されているスタッフの方もいらっしゃいます。どうぞお気軽にご利用ください。お待ちしております！

【サポートセンター開設の経緯】

現看護担当課は、スタッフの募集活動をメインに看護師採用課として活動しておりました。今年度よりスタッフのサポート・支援にも力を入れるため、部署名を看護担当課に改め、皆さんの立ち寄りやすい新西棟4階にサポートセンターを開設することになりました。

【行田総合病院看護担当課】



社会医療法人 社幸会
行田総合病院

平日朝～夜日時まで受付中！
TEL.048-552-1111
看護担当課

メールでの相談は
recruit@gyoda-hp.or.jp

看護学校へ進学したいなら
看護奨学金制度の
説明会へ！

時間 10:00～12:00
会場 行田総合病院

※ご本人・親御さん・学校の先生にご参加いただけます。

必要な時に
すぐ貸与します！
※申請後、最短1カ月

返済不要
※一定の条件があります

最高
240万円
※4年間月額5万円

看護奨学金制度を利用して
3年で看護師に!!

当院の看護奨学金制度を利用して
毎年10人以上の学生が看護師になる夢を叶えています！



●看護担当課からのお知らせ

看護奨学金をご存知ですか？看護学校進学をサポートする病院独自の制度です。

看護学校への進学を目指している方、またはすでに看護学校に在学している方を対象に、病院から経済的なサポートをする制度が、看護奨学金制度です。

卒業後に看護師として当院で勤務していただければ、基本的に全額返済が免除されます。

高校生を対象に、定期的な説明会を開催しております。またご興味のある方へは担当者がいつでもご説明いたします。お気軽にご連絡ください！

TEL.048-552-1111 (看護担当課)

メール recruit@gyoda-hp.or.jp

【行田総合病院看護担当課】